

いのちとひかり——真宗のいのち観

池田 勇 諦

目次

表紙デザイン  
村田直哉

## 一、御遠忌テーマから学ぶこと

- 真宗のいのち観について……………1
- すべてがモノ化され、数量化されていく現代の課題……………6
- 真宗同朋会運動と向き合う……………12

## 二、無量寿なるいのち

- 「いのち」を教えに尋ねる……………15
- 如来の本願が無量寿……………17
- 私たちを仏道に立たしめる……………21
- いのちが光としてはたらき出る……………24
- 念仏は如来の喚びかけ……………28

## 三、真実の生き方

- 念仏者と神々との関係……………33
- 神々の支配から独立する生き方……………37
- 神々とは権力と世間体……………40
- 仏道に立つ……………44
- 親鸞聖人の選び……………46
- 念仏は過去・現在・未来の人生問題にかかわる……………49
- あとがき……………54

## 一、御遠忌テーマから学ぶこと

### ■真宗のいのち観について

今年も大切な報恩講にお遇い（あ）をいたしましたし、またこうして、みなさんと一緒に聞思（もんし）させていただく時間を頂戴（ちやうだい）しましたことを、ありがとうございます。感謝いたすところでございます。

今回の題を「真宗のいのち観」といたしております。どうしてこういう題を出したかということを最初に申し上げたいのですけれども、みなさん方もこの題を聞いていただいで、もうその点はお察（さ）しいただいでいることと思います。親鸞（しんらん）聖人（しょうにん）の七百五十回（ちやうだい）の御遠忌（ごえんき）をお迎えするについ

て、宗門の願いを簡潔に表現するテーマが二〇〇五年の五月に発表されました。「今、いのちがあなたを生きている」。ご本山から出されておりますいろいろな印刷物にはことごとくこのテーマが書かれておりますので、みなさんも充分ご認識くださっていることと想うのです。そのテーマ発表以来、いろいろなご意見、いろいろな感想、いろいろな疑問といったものを、私はあちこちで承<sup>うけと</sup>っております。そうしたなかから、あらためてこのテーマのキーワードになっております「いのち」ということを確かめなければならぬのではないかと。そういう思いが非常に強く動きました、この席でみなさん方に申し上げて、ともに考えさせていただけたらと提出をしたこととございます。

それと同時に、そうしたことを申し上げなければならぬことにつき

ましては、みなさん方もご同感であろうと思っておりますけれども、近年、特にこの「いのち」という言葉が、あらゆる分野で用いられております。けれども、ではその「いのち」という言葉がどういう意味で使われているのか、その意味の確認ということになりますと、何か確認されないままで言葉だけが踊っているという感じが否<sup>いな</sup>めないわけです。ですから「いのち」という重い言葉が、親鸞聖人の真宗仏教のうえでどのようなふう<sup>ふう</sup>に教えられているのか、私たちはどのように頂戴しなければならぬのか。そのことを私なりに、ぜひ、ひと言申し上げたくて、こういう題を出したとございます。

最初に申し上げましたように、このテーマというものは、御遠忌法要をお迎えする宗門の願いを簡潔に語り示す言葉であるわけですから、こ

の短い一つの言葉から、私たちは大切なことがらを学び取っていかなければならないわけです。

その点になりますと、もちろんさまざまなが指摘されるのでしようけれども、基本的に、そこには最小限で三つあると私は思います。第一点は言うまでもないことですけれども、親鸞聖人がご生涯を通じて明らかにせられた課題を明確に聞き取るということが、私たちの大切な一点ではないかと思えます。

そこから、第二点として、この前の七百回の御遠忌を機に、現代に真宗を回復するという願いから真宗同朋会運動どうぼうかいが進められてまいりました。そして、みなさん方もご承知でありましょうが、七百五十回のご法要が二〇一一年に御正当ごしょうとうで、その翌年の二〇一二年は同朋会運動が丸五十年

の記念すべき年になります。半世紀にわたって推進すいしんされてきた真宗同朋会運動ですけれども、これをさらに推進すべく、その進める力というものを、このテーマから私たちが学んでいかなければならんでないだろうかということでもあります。

それから第三点として、現代の課題というものを把握し、それに応答していく方向を、私たちはこのテーマから指し示されているのではないかと、その点を一つ明らかに聞いていかねばならんでないかと。以上の三点です。一つ目は教えと向き合う、二つ目は真宗同朋会運動と向き合う、三つ目は現代と向き合うということですね。